

今アメリカでえらい事が起こっているんですよね。“Black Lives Matter/ブラック・ライブズ・マター”。人種差別抗議運動と言っているけど、ただの抗議運動・デモではなく、今はもう暴動というか、全米にそんな暴動が広がっている。ヨーロッパにまで飛び火していると言われてます。

元々白人警官が黒人の容疑者を取り押さえる時、随分乱暴な事をして命を落としてしまった。

「けしからん！」という抗議活動がエキサイトして、商店は襲われる・放火はある・殺人事件にまで発展するという事が広がっているそうです。

基本的に、日本のマスコミはトランプ大統領が大嫌い。

だから、テレビでどの番組を見ても「どうして、こんな事が起こったのか？それは、分断を煽って来たトランプ大統領にも責任がない訳ではない」みたいなコメントがめっちゃくちゃに多いです。

「こんなに分断をもたらした大統領がいるんだろうか」みたいなね。

今年アメリカ大統領選挙の年ですね。民主党の代表候補はバイデンで、世論調査でも全部バイデンが勝ってる。選挙資金の集まり方もバイデンの方が上。

トランプ大統領は、「こんなに喜ばれてない大統領はいないんじゃないか」という事が言われて。

普通は当選したらお祝いですよ。選挙期間中は敵味方に分かれてバンバン言い合っても、当落がはっきりしたら、選ばれた1人の大統領の下でビシッとまとまる、というのが民主主義の原則です。

彼が当選して大統領になった時、もう反対のデモで、暴動が起こって、「こんなに祝福されない門出の大統領がいたでしょうか」というコメントが飛び交っていたのを思い出しました。

でもよく考えたら、暴動している方を責めるべきじゃないですか？

民主主義は、投票の結果選ばれたのが自分が支持していない人物であったとしても、多数決で決まった事に対しては皆が協力してそれを認める、という事が大原則です。

その原則にのっとらない方を批判すべきなのにも拘わらず、「この人たちの気持ちもよく分かる」みたいな事を言ってますけど。

しかし皆さん、こんな大統領いたでしょうか？いました。

トランプ大統領以上に、当選する事によってアメリカに分断を持ち込んで、アメリカが大変な事になってしまった大統領って誰ですか？リンカーンです。

彼が 1860 年に第 16 代アメリカ大統領になった時、南部 7 つの州が「あ、そう」という事で、アメリカ合衆国から脱退したんですよ。抗議のデモ行進じゃないんです。アメリカ合衆国から出て行ったんです。それから 1 か月くらい後、南部連合が軍隊を組んで、北部連合に攻撃を仕掛けて南北戦争が始まりました。北軍はずっと負けっ放しだったので、北でもない南でもないボーダー/境界州という 4 つの州が南部連合に入り、それで 11 の南部連合が出来上がって戦争。こんな分断、アメリカ史上ないですよ。

第二次世界大戦で、アメリカは 29 万人亡くなってます。朝鮮戦争では、韓国を守るために米軍兵士が 14 万人も亡くなっている。だけど、南北戦争って 62 万人ですよ。

過去の歴史を振り返った時、最もたくさんのアメリカ人の血を流させた大統領、それがリンカーンです。彼は最後どうなりましたか？暗殺ですよ。南部出身の俳優上がりの人に至近距離でバーン撃たれて。

しかし今、リンカーン大統領を悪く言う人、殆どいません。歴代大統領の中で、最も尊敬されている大統領がリンカーンです。ぶっちぎりでリンカーン大統領なんですね。

時代がようやく評価に追いついた、というところがあるかと思いますが。

ところで、リンカーン大統領、やれどもやれども、次から次へと試練が出て来る。

ある時、1人の記者というライターが彼に聞くんです。

「大統領、やる事なす事、足引っ張る人たちや予期してないトラブルがどんどん出て来るのに、なぜ、あなたはそんなに傷つかないのですか？なぜ、あなたの精神構造はそんなにタフなんですか？」

リンカーンの言葉が残っています。

「バラの木にトゲがあると行って不満を言う人もいる。たくさんのトゲで怪我をしたとイライラする人もいる。しかし、トゲの木にバラの花が咲いていると思ったらどうだろう。この世界は神/創造主から離れた結果、花園のような国/世界ではなくて、いばらの荒野・いばらの森・いばらとあざみの森。

いばらとあざみしかないのが当たり前だと思ったら、時々起こる美しい事が、ものすごく美しい事のように見えないだろうか。この地上天国で、理想はいつも当たり前のように実現して当然だと思っていたら、ガッカリする度合いも激しくなる。だけど、元々この世界は罪の世界だ。にも拘らず、時々胸を打つ美しいエピソードや素晴らしい報告を聞いた時、嬉しくなるじゃないか。」

この世界観、好きですね。あまりにがっかりしすぎて生きる事のないように、この世界に対しては過剰なまでに期待し過ぎないという事です。

本当の理想はキリストが地上再臨した後で、この世界に実現する。これが聖書の世界観なんです。

なぜこんな話をご紹介したかという、今日の黙示録の箇所、今まで1章から6章まで見ましたが、既に患難時代に入っています。

6章から患難時代に入っていて、戦争・飢饉・疫病、たった3年半で世界人口が半分になるという恐るべき事が、次から次へと矢継ぎ早に起こる。

いばらの世界の中でも、最もいばらが生い茂るような時代が患難時代。

いばらのどうしようもないトゲだらけの時代に、バラが咲くような事が描かれているのが7章。

実は、患難時代は人類史上最大のリバイバルが起こる時代なんですよ。

患難時代はただただ恐ろしいだけの時代じゃない。7年間という限定期間の中で、最も多くの人々がイエス・キリストを信じ、創造主なる真の神様に立ち返る収穫の時でもあるんです。

さばきの時でもある。イスラエルの回復のためでもある。

しかし、最も多くの人々が、キリストの福音によって立ち返る時でもあると語っています。

ところで、患難時代の前に、クリスチャンは携挙と言って、この世界からいなくなります。

今はクリスチャンを通してキリストの福音を聞く事が出来ます。

しかし患難時代は、救われているクリスチャンは1人もいない。クリスチャンはどこにもいない。

どうやって、キリストの福音を聞く事が出来るんでしょう？

患難時代に世界中に出て行って、“御国の福音”と言われる福音を宣べ伝えてくれるのはユダヤ人です。

このユダヤ人が 144,000 人いる。彼らはどんな人たちかを、詳しく情報提供しているのが黙示録 7 章。

黙示録 7:1 その後 (のち)、

その後。これは時間的な流れの事ではなく、ヨハネが次に見た幻を紹介している枕詞です。

6 章までずっと、患難時代の 6 番目の封印までを時系列で見ました。

その時系列で次に何が起こるかではなく、「今まで見ていた幻とは別の種類の幻を、これから新しくここで紹介します」という意味です。

基本的には、黙示録は時系列で、時間の順番で書いてあります。

時系列では、やがて患難時代が来ます。患難時代は反キリストがイスラエルと 7 年有効契約/条約を結ぶ事でスタートします。この日がカウントダウン開始。

そして、イエス・キリストが地上再臨する事でピリオドを打ちます。

患難時代は前半と後半に分けられますが、前半は前半と後半、そして後半の 3 つに分けられます。

前半の前半の事を 7 つの封印で、前半の後半の事を 7 つのラッパで、後半を 7 つの鉢で預言しています。

7 つの封印の時代が終わった後、次に 7 つのラッパの時代が来て、その次に 7 つの鉢の時代が来ます。

時系列で書いてあるのですが、4 回、挿入箇所が出て来るんですね。

時系列ではなく、間に記事が 4 回挿し込まれる。

この構造が分かると、黙示録を解読する時、非常にしやすくなります。

挿入箇所は ①7 章 ②10 章-11 章 3 節 ③12 章-14 章 ④17 章-19 章 10 節

4 回の挿入では何が語られているのか？

これまで預言の中でサラッと語られて来た事を、より詳しく説明するための補足の場合もあるし、今語っている預言の実現の中で、同じ時に並行して起こっている出来事を紹介するために説明している挿入もあるし、まだ預言の場面に登場していないけど、これから登場する重要人物について、前もって詳しく説明するための挿入もある。

とにかく大きな流れは、封印(前半の前半)、次にラッパ(前半の後半)、その次が鉢(後半)。

だけど、4 回、説明の箇所がある。これを時系列だと解釈すると、頭の中がごちゃごちゃになって、「黙示録はワケ分かんない」ってなるんです。構造はこういう事なんです。

今日は 1 回目の挿入箇所 7 章。何が書いてあるのか？

前回の 6 章 9 節。第 5 の封印を解くと殉教者たちがたくさん出て来ます。患難時代にキリストを信じた人たちが信仰のゆえに迫害されて命を落とし、天国に行って神の前に叫んでいる場面です。

ここで読者は「彼らは誰から福音を聞いたんだろう？」と疑問に思うはずですが。

福音を知っているクリスチャンは携拳で既に引き上げられて(この世界に)いないのに、患難時代にどうやって福音を聞く事が出来たのか？

7 つの封印を語っている時は、その疑問がある事を分かりながら、いちいち説明していません。

まず 7 つの封印。その後 7 章に入って、なぜ彼らは信じる事が出来たのか？

彼らに伝えた人たちがいます。それが 144,000 人のユダヤ人ビリーバー・信者たちです。

最初に、7 章全体をイメージざっくり掴んでいただくために…。

黙示録 7:1 その後、私は四人の御使いを見た。彼らは地の四隅に立ち、地の四方の風をしっかりと押さえて、地にも海にもどんな木にも吹きつけないようにしていた。

地の四方をコントロールしている 4 人の御使いがいます。4 人の御使いたちに対して、第 5 番目の特別な御使いが現れます。彼は手に神の印を持っていて、それをある人たちの額に押して行くと、押された人たちは選びの器となり、世界中に福音を宣べ伝える器になるのです。

5 番目の御使いが 4 人の御使いに、「印を押すまでの間、あなたたちはこの世界に天変地異が起こらないようにコントロールしていなさい。」と言って、印を押して行く。

黙示録 7:4 私は、印を押された者たちの数を耳にした。

それは十四万四千人で、イスラエルの子らのあらゆる部族の者が印を押されていた。

印を押されるのは、イスラエルの子らのあらゆる部族なんです。

イスラエルはヤコブという族長の別名。ヤコブの子ら。ヤコブからイスラエル 12 部族が出て来ます。

黙示録 7:5-8

5. ユダ族から一万二千人が印を押され、ルベン族から一万二千人、ガド族から一万二千人、
6. アシェル族から一万二千人、ナフタリ族から一万二千人、マナセ族から一万二千人、
7. シメオン族から一万二千人、レビ族から一万二千人、イッサカル族から一万二千人、
8. ゼブルン族から一万二千人、ヨセフ族から一万二千人、ベニヤミン族から一万二千人が印を押された。

12 部族、1 部族ずつ 12,000 人にハンコが押されたので、 $12 \times 12,000$ で 144,000 人です。

なんでダン族がない？とか、色々説明したいけど時間がない。何しろこのシリーズは『ざっくり黙示録』。ざっくり行くんです。また皆さんが来ていただけるようになったら、質問も受け付けられたらいいかなと思います。

今日はこの箇所から、ざっくり 3 つのポイントでお話します。

1. イスラエル 10 部族は失われていなかった。
2. 額に印を押される意味は何か。
3. イスラエルの 144,000 人が患難時代に福音を宣べ伝えてくれるのは分かるけど、彼らは誰から福音を聞いて信じたのか。人に教える前に自分が分かっていると教える事は出来ないはず。そもそも、どうやって信じたのか。

1. イスラエル、失われた十部族は失われていなかった。

皆さん、こんな話聞いた事ありませんか？

イスラエルは、ソロモン王の時までは 12 部族が 1 つの国でした。

ところが、ソロモンの息子の時代に、イスラエルは南北朝に分断します。

北はイスラエル王国。ヤロブアムが初代王様。10 部族で構成していました。

南はユダ王国。ユダ族だから。ソロモンの息子レハブアムが王様。ここはユダ族とベニヤミン族。

元々 1 つの民族・1 つの国だったのに、北のイスラエル王国、南のユダ王国。10 と 2 に別れてしまった。

北は BC722 年、アッシリア帝国に滅ぼされ、アッシリアは北の国民を捕虜として引っ張って行きました。「その後、引っ張って行かれた北の 10 部族は行方不明になりました。アッシリアから帰ってきた記事がないから」と言うんですね。

南はどうか？南も1度滅びます。ネブカドネツアル王のバビロン帝国によって、BC586年に神殿が炎上して滅びました。「神殿炎上させて、この(5)やろう(86)」って覚えてらいたかがですか？

ところが、彼らは70年後にイスラエルに帰って来て神殿を再建します。再建したのがBC516年。「私の名前は高原 剛一郎(516)」って覚えてらいたかがですか？「いやじゃ！」好きにしてください。

とにかく、ユダ王国はバビロンに滅ぼされ、彼らも引っ張って行かれたけど、やがて戻って来た。「よって、現在のイスラエルに住んでいるユダヤ人たちは、ユダ族とベニヤミン族の2部族の子孫であり、その5倍の10部族は行方不明になっている。行方不明になったままの部族は、どこに行ってしまったのか？」

ここから「同祖論」という考え方が出て来るんです。「日ユ同祖論」聞いた事ないですか？

「大和民族とユダヤ民族は、ヤコブという共通の先祖から出て来た」とか。

この考え方を最初に日本に広めたのは、マクラウドというスコットランド人です。

彼は明治時代に貿易商社のために来日しますが、その前は朝鮮半島にいました。

朝鮮半島にいた時、『朝鮮民族・ユダヤ同祖論』という本を出しているんですよ、この人。

彼は元々スコットランドにおったのですが、その時『アングロサクソン・ユダヤ同祖論』という本が、イギリスでものすごくヒットしていたんです。色んな民族が自分を特別だと思いたいので、「俺たちって、なんでこんなに優秀なんだ？ユダヤ民族10部族の末裔だからじゃないか？」

例えばアングロサクソン。『アングロサクソン・ユダヤ同祖論』では、サクソンを“イサクの息子(Isaac Son)”と考えるわけ。「イスラエルの子孫の事だ！」そやけどIsaac(アイザック)は英語や。ヘブライ語では“イツハク”です。息子は“ベン”か“バル”。全然似てへんやん。そんなん、いっぱいあるんですよ。

10部族の中に**ダン族**があります。デンマークに「我らの先祖はダン族」というのがあるんですよ。なんで？デンマーク、ダンマーク、ダン マーク。

ドナウ川、何と発音しますか？ドニューブ、ダニューブ、ダン ユーブ。ダンがおった。

ダーダネルス海峡。ダン ダルネルス、ダー ダンネルス。

ダン部族がずーっと散って行った、その足跡が地名として残ってるんちゃうかと。

〈アングロサクソン・ユダヤ説〉とか〈ゲルマン民族・ユダヤ説〉とか、色んなのが都市伝説のようにいっぱいあって、日本の中にもあります。例えば相撲の「はっけよい。残った。」

「残った」の意味は分かるけど、「はっけよい」の意味分かる？

『日ユ同祖論』の本には、ヘブライ語で“はっけ”は“投げつける”。“よい”は“やっつけよ”。

“はっけよい”は“投げつけてやっつけよ”。ほー！って。

ユダヤ人に聞いたら「そんなん、ちゃうで」言われますよ。都市伝説やん。

なので、これは何の学術的証拠もないんです。日ユ同祖論にはアカデミックな根拠はありません。

ありませんが、それを根強く信じているがゆえに、聖書の正しい理解が入らないという事が起こり得るんですね。だから、聖書でちょこっとだけ論駁させていただきたいのです。

北王国(イスラエル)はヤロブアム王。南王国(ユダ)はレハブアム王。

初代ヤロブアム王は上司の王様がソロモン王でしたが、下剋上で国を取りました。

しかし、彼は不安だったんですね。なぜ不安だったのか？

ユダヤ人はエルサレムにソロモン神殿と言われる神殿を持っていました。

それは南王国ユダにあったんです。

ユダヤ人男性は年に3回、祭りを祝うためにエルサレムの神殿に都上り・巡礼に行きます。

精神的支柱である神殿は北にない。で、ヤロブアムは考えます。

「毎年3回、南のエルサレムに行って神に礼拝するのを続けている内に、北イスラエルの国民の心が南になびいてしまい、俺、置き去りにされるんちゃうか？」

不安に思い、彼はエルサレム神殿に対抗するために、なんと、自分で勝手に神殿を造ってしまうんです。

ベテルという所に1か所、北の方のダンという所に1か所。

そこに金（きん）の子牛の偶像を作って、「金の子牛を拝む事で、創造主なる神様に礼拝を献げる事になるんだ！」言うてね。背教。自分で勝手に宗教を考え出した。

そして、イスラエルのレビ人や祭司を、「お前ら、言うこと聞けへんからクビ。」

自分で勝手に祭司たちを任命して、「毎年3回もエルサレムに行かなくてもいいんだ。うちの北の方にも神殿があるんだから。」その結果、何が起こったか。

北イスラエルの住民たちが「ちょっ、それ、あかんのちゃう？それはやり過ぎや。それはあかんやろ」と。

集団でユダに移住するんです。「えっ、移住する？どこに書いてある？」聖書に書いてある。

第二歴代誌 11 章。ここでは、南のレハブアム王が北のヤロブアム王に対して、「戦争仕掛けたるか！ほんまやったら、俺が全部統一された国の王様になってたはずなのに、こいつがあんな事しやがって」と。南ユダが結束を固めてイスラエルに戦争しよか。つまり、アメリカの南北戦争と一緒になんですよ。よその国と戦うんじゃなくて、同国民同士で南北に分かれて戦争する。1番悲惨な戦争ですよ。

その戦争をしようとした時に、

Ⅱ歴代誌 11:13 **イスラエル全土の祭司たちとレビ人たちは、すべての地域から出て来て、彼の側についた。**

彼は南のレハブアム王です。

祭司たちとレビ人たちはどこから来たんですか？**すべての地域から出て来て。**

イスラエル全土の**すべての地域**という事は、北のイスラエルの地域からザーツと出て来て、「戦争やるんやったら、南のユダの一員として戦いますわ」言うて。ユダの方に入った。

「いや、祭司やレビ人って、数少ないし。」もちろんそうですよ。だけど、

Ⅱ歴代誌 11:16 **彼らの後に続いて、イスラエルの全部族の中から、イスラエルの神、主を尋ね求めようと心に決めた者たちが、その父祖の神、主にいけにえを献げるためエルサレムに来た。**

祭司・レビ人だけではなく他の10部族の中からも、「こんな偶像礼拝の神殿造るの、あんまりや」と思っている人たちは南の方に集団移住してるんです。

分かれたけど、主だった人たちは南王国に、既に引っ越し完了してるという事なんですね。

さて、今度は**アサ王**。南王国の3代目の王様で、BC900年くらいの人です。彼は非常に長期安定政権で、44年間王様を続ける事ができました。安定した時の南ユダ王国は、どんな人口構成だったのでしょか？

Ⅱ歴代誌 15:9 彼（アサ王）は、ユダとベニヤミン（南王国）のすべての人々、およびエフライム、マナセ、シメオンから来て彼らのもとに寄留している人々を集めた。
その神、主がアサとともにおられるのを見て、イスラエルから多くの人々が彼のもとに下って来ていた
のである。

極々わずかな例外者が単独でユダに来たんじゃなくて、イスラエルから多くの人々が南ユダ王国に引越
ししておりました、と言っているわけです。
つまり、ユダ王国の中に、イスラエル 12 部族が全部揃っているという意味です。

Ⅱ歴代誌 30:10-11。非常に重要な箇所です。
ここはヒゼキヤ王の時代ですが、この時、北王国イスラエルは既にアッシリアに滅ぼされて無いんです。
捕囚でイスラエル王国は空っぽのはず。

これは、イスラエル王国がアッシリアに滅ぼされて数年後の記録です。
南ユダ王国のヒゼキヤ王は、「ユダヤ人の非常に重要な過越の祭りがあるけど、北の人たちは祝う事が出
来ない。だから遣いの者たちを北に送って、過越の祭りを祝いに南王国に来なさいと招待しよう。」

10. こうして急使たちは、エフライムとマナセからゼブルンの地に至るまで、町から町へと行き巡ったが、
人々は彼らを笑い者にして嘲（あざけ）った。

エフライムとマナセからゼブルンの地に至るまでは、北イスラエル王国の土地の事です。
人々は彼らを笑い者にして嘲った。「なんで、行かなあかんねん」と言って、北にいる人たちは嘲った。

11. ただ、アシェル、マナセ、およびゼブルンの一部の人々は、へりくだってエルサレムに上って来た。

ここで注目して欲しいのは、アッシリアに滅ぼされて捕囚になったはずなのに、ちゃーんとイスラエルの
の人たちが残っているんですね。そして「なんで、行かなあかんねん。行かへんわ。」
わーわー言うてるんですけど、なんで残ってるんですか？

アッシリアが引っ張って行ったのは、北イスラエル国民の全員ではなく、エリート層だけだったんです。
一般庶民はそのまま残しました。エリート層・指導者層を引き抜いたら、国家がちゃんと回らない事が分
かっていたから。だから、アッシリアに引っ張って行かれたのは、極々一部でしかなかった。

その後、南王国ユダはバビロンに滅ぼされ (BC586)、バビロンに連れて行かれるけど、また戻って来ます。
ところで、バビロンは南王国を滅ぼしただけでなく、北王国イスラエルを滅ぼしたアッシリアも滅ぼし
た国です。めちゃくちゃ強い。なので、どうなったか。

アッシリアが連れて行ったユダヤ人が住んでいた領域は、バビロンの領域になっています。
だから、南王国の人たちがバビロン捕囚で連れて行かれた時、アッシリアによって一足先に連れて来ら
れていたユダヤ人と合流したんです。
彼らがユダの国と一緒に帰って来たわけ。行方不明じゃない。ちゃんと帰って来てる。

帰って来た時にどんな事が起こったのかを詳しく書いているのがエズラ記とネヘミヤ記。
バビロンからユダの地に帰って来て神殿を再建します。

エズラ 6:15 こうして、この宮はダレイオス王の治世の第六年、アダルの月の三日に完成した。
ダレイオス王の治世の第六年が BC516 年。ゴーイチロー。

この時、神に感謝のいけにえを献げます。

エズラ 6:17 彼らはこの神の宮の奉献式のために、雄牛百頭、雄羊二百匹、子羊四百匹を献げた。
また、イスラエルの部族の数にしたがって、全イスラエルのために罪のきよめのささげ物として、雄やぎ十二匹を献げた。

イスラエルの部族の数にしたがって、雄やぎ十二匹を献げた。イスラエルの 12 部族が、この時点で揃っているという事ですよ。つまり、イスラエルの 12 部族は失われていなかったという事です。

この 12 部族からそれぞれ 12,000 人ずつ救われるのは患難時代の前の話です。

という事は、ユダヤ民族は患難時代に至るまで、散々迫害され続けて来た民族だけど、世の終わりまで滅びる事なく生き残り続けているんだ、と聖書は保証しているんですね。

私たちはそれを今見る事が出来るんです。だって、イスラエル共和国という国があるんですから。

したがってポイント 1. イスラエル 10 部族は失われていない。日本人とイスラエル人は同じではない。
そんな事があるというまことしやかなお話は、それはロマンはあるけど聖書的ではない。
それを追求しても、聖書が本当に言いたい答えに辿り着かない。

ポイント 2. 額に印を押される意味は何か。

黙示録 6:17 神と子羊の御怒りの、大いなる日が来たからだ。だれがそれに耐えられよう。

これは患難時代に入った人々の叫びです。彼らは戦争を・飢饉を・疫病を経験し、人口の 1/4 が減るとい
う事を見て、地球構造が狂い出して、宇宙が今までと全く違った様相を呈するようになった時、身の置き
場がなく、心の底から震え上がったんですね。

神と子羊の御怒りの、大いなる日が来た。恐怖のどん底の中で、今起こっているのは単なる自然現象では
なく、神と子羊の御怒りだと認識してる。

そして、だれがそれに耐えられよう。誰も耐える事が出来ないだろう。こんなに恐ろしい事には。

この叫びに対する答えが 7 章です。耐える事が出来る人たちがいます。それが 144,000 人の人たちです。

黙示録 7:3-4

3. 「私たちが神のしもべたちの額に印を押してしまうまで、地にも海にも木にも害を加えてはいけない。」

4. 私は、印を押された者たちの数を耳にした。

それは十四万四千人で、イスラエルの子らのあらゆる部族の者が印を押されていた。

額に神の印が押してある。これが肉眼で見えるのか分かりません。神には見えるのだと思います。

印を押された者たちは、患難時代に起こるあらゆる災いから、最後の最後まで守られるのです。

黙示録 9:3-5。これは第 5 のラッパが吹かれた時に出て来るさばきで、悪霊によるさばきです。

3. その煙の中からいなごが地上に出て来た。それらには、地のサソリが持っているような力が与えられた。

4. そして彼らは、地の草やどんな青草、どんな木にも害を加えてはならないが、額に神の印を持たない人
たちには加えてよい、と言い渡された。

5. その人たちを殺すことは許されなかったが、五か月間苦しめることは許された。
彼らの苦痛は、サソリが人を刺したときの苦痛のようだった。

死にたいけど死にきれないという苦痛がここから始まる、と後で出て来ます。

このようなさばきは誰に下ったか？額に神の印を持たない人たち。

という事は、額に神の印を押されている人たちは、患難時代にどんな困難や災いがあっても、それを受けないという事です。

144,000 人は 1 人も殉教しません。7 年間、最後の最後まで生き残ります。あらゆる災いから免れます。「最後の最後まで御国の福音を宣べ伝える」という任務があるからです。

彼らを最後の最後まで無傷で保つのは、彼らの言葉を通して、1 人でも多くの人がイエス・キリストを信じる事を神が望んでいるからです。

マタイの福音書に「わたしの小さい兄弟たちに、水 1 杯与えた者は報いに漏れる事はない」とありますが、「わたしの小さい兄弟たち」は 144,000 人の人たちだと私は信じています。

この人たちを助ける事によって大変な迫害を受けるかも分からないけど、それでも助けるのは、彼らの言葉を聞いて信じたからなんですね。

ポイント 3. イスラエルの 144,000 人は誰から福音を聞いて信じたのか。

患難時代の前に教会は携挙されているので、教会から聞く事は出来ません。

それを解説するために、

黙示録 7:1 その後（のち）、私は四人の御使いを見た。彼らは地の四隅に立ち、地の四方の風をしっかりと押さえて、地にも海にもどんな木にも吹きつけないようにしていた。

4 人の御使いの仕事は四方の風を押さえる事です。

風は地・海・木に害をもたらすもので、つまり地球的スケールの天変地異の事なんですね。

では、地の四方って何でしょう？地は地球・地上。四方は東西南北。つまり地上の東西南北/全世界。

患難時代が始まると、天変地異が息つく間もなく次から次へと続くのですが、風を押さえているという事は、7 章は恐らく患難時代の前に起こる事。恐らく患難時代の前、しばらく穏やかな時代があります。皆が「平和だ。安全だ」と言って、それがいつまでも続くかのように錯覚する時代です。

では、なぜ四方の風を押さえるのか？地の四方にいるユダヤ人 144,000 人を救うためなんですよ。

144,000 人のユダヤ人は、イスラエルに住んでいるユダヤ人も一部含まれているけど、大多数は地の四方に住んでいるユダヤ人。ディアスポラ・ユダヤ人。世界中に散って、そこに住んでいるユダヤ人。だから、地の四方/世界中にさばきの風が吹くのをとどめよ、と言ったんですね。

なぜ世界中にいるユダヤ人が用いられるのか？

短期間に、世界のあらゆる国に御国の福音を宣べ伝えるためには何が必要でしょう？

宣教師が外国に行って福音を伝える時、最初にするのは語学を身に付ける事です。

現地の言葉を習得するために 2 年間はそれに注力する。それが、どの宣教師もくぐらなければならない事なんですね。

私は教育大学で勉強したんですが、教育学の授業 1 年間いてて、1 こしか残らへんかった格言があります。

「ジョンにラテン語を教えるためには、ラテン語を知っているだけではなく、ジョン自身を知らなければならぬ。」

ラテン語は難しいので有名な言語です。ジョンという子供に難しいラテン語を教えようと思ったら、ラテン語に詳しく通じているだけではなく、ジョン君がどんな性質が分からへんかったら伝わらへんで。もしジョンが昼夜逆転の人なら、朝早く訪問して教えるのは失敗です。ピンポン。寝てる。もしジョンが言葉嫌いなら、ラテン語から入るのはダメですね。ラテン語を知っているだけじゃなくて、ジョンの性質を知っていなければ駄目です。

同様に、宣教師が外国の人に聖書の価値観を教えるには、聖書の価値観をよく分かっているだけで、いきなり形だけバーンと行っても、その文化・習慣・価値観・歴史観・プライドなどを知らないなら、「ナニゆうてんの。外国の話や！」跳ね返されますよ。

聖書の話をする時、私は日本人で、聞いている方も殆ど日本人だから、日本の文化を使って話すと 1 番届くというのが経験上分かるんです。

ブルースト（フランスの小説家。『失われた時を求めて』）の話なんかしても「はあ〜？」。若者たちには、ドストエフスキーよりルフィ（漫画 ONE PIECE の主人公）の話の方が絶対届くんですよ。相手が採用している価値観や世界観を使わないと、なんぼ言いたい事があつたとしても、頭の上をシューッと通りすぎてしまって届かないんじゃないですか？

日本で生まれ育っているユダヤ人・幼い時に日本に来たユダヤ人・両親のどちらかが日本人というユダヤ人で、旧約聖書に詳しい人たちは日本語ベラベラ。日本の文化、むちゃくちゃ分かるんじゃない？今、日本語ベラベラのユダヤ人の YouTube が 4・5 種類あるけどオモロイ。めっちゃ。家内はヒマあったら、それ見てますねん。「なに見てんねん、自分？」あははって。むちゃオモロイ。日本の観光客がイスラエルに行ったら AHAVA（アハバ）の化粧品買う。でも、ユダヤ人女性が 1 番ウツリ憧れているのは資生堂。「日本には資生堂あんのに、なんで AHAVA 買う?!」とか、おもしろい話してくれるけど、日本語うまいわ。私より上手いと思う。早口やし。この人、日本人の気持ち、よう分かってる。イスラエル人の気持ちも分かりますよね。

気持ちだけじゃなくて、旧約聖書に精通していて、尚且つ異邦人の文化に精通している人が救われた時には、短期間で新約聖書を学んで、非常に正確な聖書理解・福音理解をヘブリス的に理解した上で、説得力を持って語ってくれるんじゃないですか。

日本にも彼らが来てくれます。彼らの口を通して、日本人は**患難時代**も福音を聞く事が出来ます。ユダヤ民族は日本人の命の恩人になるのです。だから、反ユダヤ主義の考えは悪魔的な考えという事で、もしそんな聞いたら追っ払ってください。

彼らは**患難時代**に福音を伝えるのに最も適任な人たちだけど、一体どうやって福音を信じるようになったのかについては**黙示録**に書いてありません。私の想像ですが、2 つの事があるんじゃないか。

1 つはやっぱり**携拳**です。クリスチャンが地上から忽然と姿を消した後、世界は大混乱します。1 人 2 人が行方不明になったんじゃない。何億人もの人がいなくなるでしょう。その中には有名人・芸能人・政治家、国家の舵取りで重要な任務を負っている人・その人がいないと国が回らなくなるような重責を担っている人にもクリスチャンがいるでしょう。いなくなった時に気付かないなんてあり得ないですよ。強烈なインパクトをまず受けます。

クリスチャン/教会が地上にいた時に書いた聖書注解書・聖書メッセージの DVD・YouTube の情報は携挙の後残ります。日本にいるユダヤ人に、この YouTube 使ってもらったら、めちゃくちゃ光栄です。それも願いながらやっています。

もう一つ、大事件があります。携挙の前か後かは分かりませんが、必ず患難時代の前に起こる大事件。エゼキエル戦争。ゴグと言われるロシアにイランやトルコが伴って、再建されたイスラエルに侵略しますが、イスラエルの地に入るや否や超自然的に全滅する。それをリアルタイムで見るとエゼキエル書に書いてあります。それを見て、後からエゼキエル書を読むというのではなく、エゼキエル書を前もって読んで知っている人たちが、その通りの事が目の前で起こった時に受ける衝撃は、計り知れないものがあると思います。

その中で、多くの人が主を信じるようになると書いてあるのですが、ただ神を信じるだけではなく、イエスをメシアだと信じるユダヤ人が、この2つの事件を通して起こされて来ると思います。その中で、特に 144,000 人が選ばれます。これは、ユダヤ人の中で救われるのは 144,000 人だけという意味じゃありません。ユダヤ民族全体の 1/3 が救われます。144,000 人は特別な使命を帯びたユダヤ人です。

このユダヤ人たちが日本にも来て福音を伝え、今は固い日本人に、黙示録が次々と実現する時代、励ましを与え、福音を宣べ伝えてくれることでしょう。しかしその時代は、彼らをちょっとお見舞いに行ったり、助けたり、コップ 1 杯の水を差し出すだけでも、命を引き換えにしなければならないような危険を冒す時代なのです。

締めくくります。

患難時代は神と子羊の御怒りの日と書いてあるように、確かにさばきです。しかし、聖書がさばきを語る時は、必ず救いを添えてメッセージされています。滅びの宣告だけでなく「いかにしてそこから逃れる事が出来るか」という救済の道を、必ず添えてメッセージしているのです。いや、救済に与らせるためにさばきを語っている。つまり神様の本心は、あなたが救われる事なのです。

神様は、あなたがキリストを信じて、あなたの魂の親に戻るのをお待ちになっている方です。是非、黙示録の預言の真実性を確かめられて、キリストを通して神に立ち返ってください。心からお勧めしたいと思います。

- ~~~~~
- * 動画は YouTube で「HCA 東住吉キリスト集会」
 - * ラジオ番組「聖書と福音」(約 14 分) も是非どうぞ。YouTube もあります。
 - * YouTube「ごうちゃんねる」(約 10 分) も是非見てください。

動画筆記:Rumi